子どもの広場

食べ物に感謝

蘇原第二小、WFP応援団と交流

紙芝居で食糧難のアフリカ学ぶ

児童「助けたい」

食育に関連して世界食糧計画（WFP）への募金活動を学校挙げて取り組む各務原市蘇原沢上町の蘇原第二小学校で、横浜に本拠を置くボランティア団体「WFP応援団」メンバーを招いて全校道徳が行われた。小学生の少女を主人公に、アフリカの現状を紹介した紙芝居やメンバーとの交流を通して「食」の大切さを学んだ。

（加藤邦男）

同小は食育の一環としてWFP東海地区担当者の岡秀晃さんを招いて講演会を開催するなど、アフリカの子どもやWFP活動について学習。チャリティーコンサートでの募金活動や手作り作品のバザー、活動を象徴して作った「熱波Tシャツ」販売の収益金などこれまでに約五十五万円をWFPに贈っている。

WFP応援団は、WFPの活動理念に賛同した横浜市民が、活動紹介や支援の輪を広げるため、一九九七年五月に結成したボランティア団体。現在会員は主婦ら約五十人。チャリティーコンサートや写真展、横浜市内のイベントでのWFP広報活動など行っている。

全校挙げてWFPの募金活動を続ける中で同校関係者が、WFPのホームページで応援団の存在を知り、早速「小さな仲間」として同小児童を応援団の特別会員に登録。応援団メンバーの村田祈世子さんが作ったアフリカの子供や大地の写真と文章で、アフリカの現状を伝える紙芝居「アフリカ　雨が降らない年」を取り寄せ、昨年六月に全校道徳で活用。子供たちから大きな反響があり、給食の食べ残しが減少したという。

全校道徳の様子を応援団に報告したところ学校を見学したいと、応援団メンバーの来校が実現した。訪れたのは代表の西尾悦子さん、村田さんらメンバー五人と岡さん。西尾さんがはり絵で作った紙芝居「ベラはがっこうがだいすき」を教材に全校道徳を行った。

アフリカの小学生の少女ベラが未来に向かって素直に、たくましく生活する姿を描いた紙芝居を、作者の西尾さんが朗読して校内のテレビで放映。紙芝居を見た児童は各クラスで感想を話し合った後、希望する児童が放送室から全校に向けて、「私たちは苦労しなくても給食が食べられる」「学校へ行く前に家の手伝いをするのは大変。かわいそう」と感想を発表した。

五、六年生とメンバーの交流会が体育館で開かれ、児童が同校の活動を発表。応援団メンバーが世界の食糧事情など織り交ぜながら緊急プログラム、成長のためのプログラム、自立のためのプログラムなどWFPの活動を紹介。「百㌘の牛肉には八百㌘の穀物が必要です。私たちにできることは食物を無駄にしない、食べるものを（ちょっと）減らすことが大切」と話した。児童らは「困っている人のために、小さなことでも活動したい」と話していた。

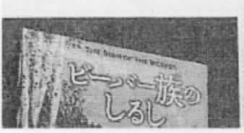
最後に児童代表が、空き缶や牛乳パック回収、熱波Tシャツ販売収益金など計九万七千四百五十六円をWFPへ寄贈した。

校道徳で自作の紙芝居を朗読するWFP応援の西尾悦子さん＝各務原市蘇原沢上町の蘇原二小学校

放送を通じて紙芝居の感想を発表する児童＝同

交流会でWFPの活動について説明するWFP応援団メンバー＝同

NIE
Newspaper in Education



一七六八
カ大陸のイ
いる森に、
親子が住む
きます。マ
家族を迎え
間、一人森

Two
ns～
とれい

この本は
の女の子の
心をテーマ
短編集です
両親の別
院ー。それ

ビーバー
の
エリ
ージ
こだ